

九州・沖縄ブロック「統合のメリットを活かした事業」

九州地区ボランティア交流会

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
国立夜須高原青少年自然の家
国立沖縄青少年交流の家
国立諫早青少年交流の家
国立大隅青少年交流の家
- [共催] 九州地区青少年教育施設協議会
- [期間] 平成21年3月13日(土)～14日(日) 1泊2日
- [会場] 国立阿蘇青少年交流の家
- [参加状況] 施設ボランティア25名,施設職員14名 合計39名



実践発表会の様子

【公立参加施設】大分県立社会教育総合センター,佐賀県北山少年自然の家
鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター,鹿児島県立青少年研修センター
熊本県立あしきた青少年の家

1 趣旨

統合のメリットを活かした事業を通して,ボランティア自身が各施設間の交流を行うことにより,各施設におけるボランティア活動の内容や考え方を理解し,今後のボランティア活動の意欲の向上並びに資質の向上を図る。

2 目標

- (1) 実践交流会を通して,ボランティア活動の現状やボランティア活動に対する考えを知る。
- (2) 実践交流会や情報交換会などを通して,親睦を図るとともに,他施設との連携を図るきっかけとする。

3 事業の実際

(1) 研修プログラム

日程	午前	午後	夜
3/13 (土)		○開会式 ○実践発表会 ○グループ討論会	○情報交換会
3/14 (日)	○遊びフェスタ準備 ○施設ブース運営	○閉会式	

(2) 目標達成のための工夫点

① ボランティア活動の現状や個々の活動に対する考え方を分かち合う工夫

ボランティア活動の現状や活動に対する個々の取り組みをより身近に感じ、参加者自身がこれからの実践につなげていけるように、施設ごとの実践発表会をプログラムに取り入れ、その発表をボランティアにさせるようにした。施設ごとにその発表に向けての準備を施設職員とボランティアが共同で行う



ことで、これからの活動について話し合う機会を作り、課題や成果について確かめあえるようにした。また、その後にグループ討論会を取り入れることで、個々の取り組みやその中で感じている思いや課題をより分かち合え、ボランティア同士で各施設の現状や課題などを共有できるようにした。

② 交流を深める工夫

プログラムの1日目は、ボランティア同士がたくさんの交流を図れるように、実践発表会、グループ討論会、情報交換会という流れを仕組み、グループの枠を徐々に広げながら交流の輪を広げていけるようにした。グループ討論会では、様々な施設のボランティア同士が交流できるようにグルーピングするとともに、企画指導専門職を各グループの進行係につけ、話し合いやすい雰囲気を作ることを心がけた。また、情報交換会ではグループごとに調理をする活動を取り入れ、みんなで作業をする楽しさを共有しながら多くの情報交換ができるようにした。

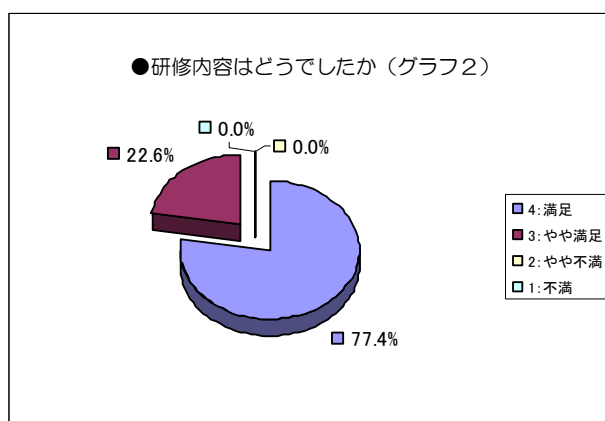
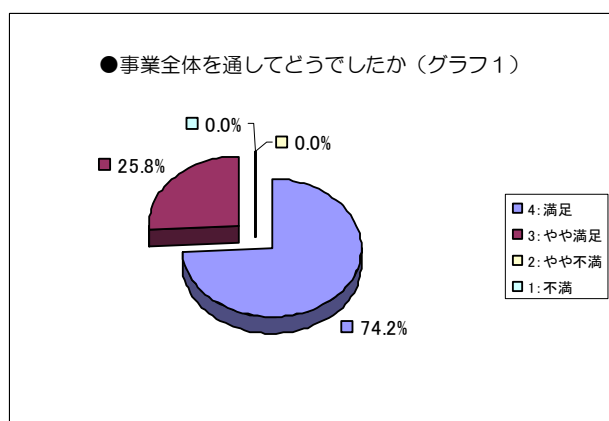


③ 他施設との連携を図るきっかけをつくる工夫

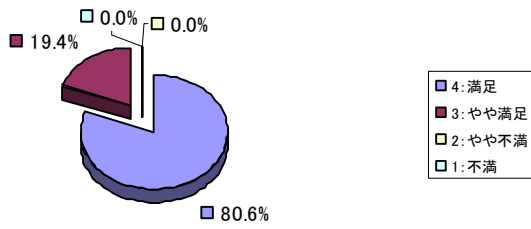
プログラムの2日目は、本施設のオープンドリーム事業である「笑顔いっぱい遊びフェスタ」に施設ごとにブースを出店し、活動の実際を見せ合ったり、体験し合ったりできるようにした。

4 結果

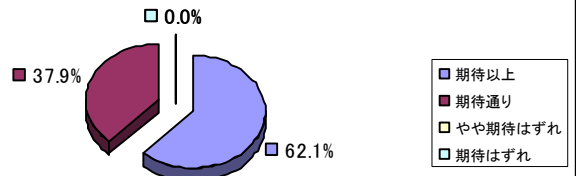
アンケートの結果は以下の通りである。



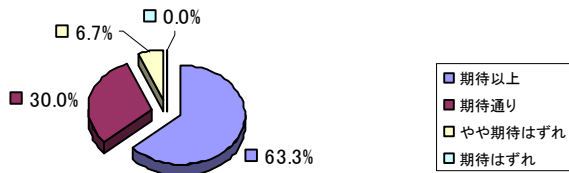
●事業の運営はどうでしたか（グラフ3）



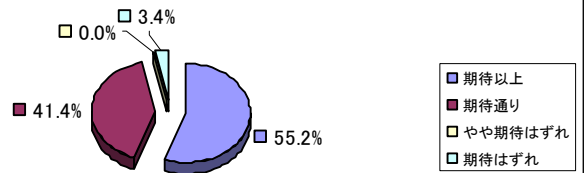
●事業を通してボランティアの意欲が増したか（グラフ4）



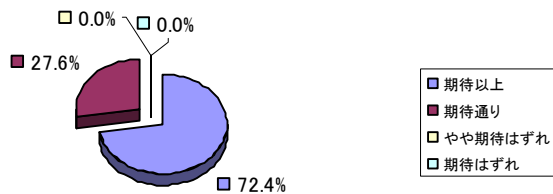
●この事業を通して、ボランティアの活動の情報を得ることができたか（グラフ5）



●この事業を通して、他の施設でもボランティア活動してみたいと思ったか（グラフ6）



●この事業を通して、他の施設に友達ができただか（グラフ7）



(1) 今回のプログラムで良かった点や改善点に対する参加者の記述

- ・ 多くの出会いがあったことが一番何よりも、他施設のレクリエーションなどの話を聞いて良かった。
- ・ 遊びフェスタのような事業は、経験がなかったのでワクワクした。また、その場で他施設の良いところを実際に見ることができたので、今後に生かしたい。
- ・ 他施設のボランティアスタッフととても仲良くなれ、多くの情報を得ることができた。
- ・ 多くのボランティアと交流が持て、施設間での違いを知ることができて良かった。
- ・ 他地域の特色やスキルの交流ができて良かった。今後もいろいろな施設間との交流をはかりたい。
- もっと各施設のボランティアが抱えている問題や活動の内容を知りたかった。交流会が一日目の夜しかなく、もっとスキルなどについて情報交換をする時間が欲しかった。
- 宿泊する部屋を同じにするなどして、もっとボランティア同士で活動などについてじっくりと話をする場や情報交換をする場が欲しかった。

(2) 参加者の感想

- ・ いつも接している沖縄の子どもと阿蘇の子どもでは全然様子が違って、地域でこんなに違うのだと感じた。実際に阿蘇の子ども達と触れあうことができ、本当に良かったです。
- ・ 子ども達と接して作品を完成させて笑顔で帰っていくのを見て、私自身も達成感を得ることができたし、更に自分自身のスキルについても深く考えさせられた。今回参加できてよかった。
- ・ 自分たちの施設にあるもの、無いもの等をたくさんの人たちと交流することで感じる事ができて、本当に楽しかった。
- ・ 他施設の様子や職員の方々、ボランティアの方々との交流ができ有意義な時間を過ごすことができた。ボランティアの方々のパワーは本当に素晴らしい。
- ・ 他のボランティアの意識の高さや経験の豊富さととても感銘を受けた。私ももっとボランティア活動に参加したいという気持ちになった。
- ・ 普段同じ県内の施設間でもボランティアとの交流はいうものはないので、今回九州沖縄地区のボランティアの方々との交流ができてとても勉強になった。
- ・ 同じ大学生ボランティアの声を聞くことができ、とても良い刺激になった。実践報告をはじめ、交流会などに参加できたことに加えて、仲間が増えたことが良かった。
- ・ 今回のボランティア交流会で改めて人と人とのつながりの大切さを学びました。多くの方々と一緒に楽しく交流でき、また各施設での活躍を聞くことができ、大変学びの多い時間となった。また機会があれば是非参加したい。

実践発表を聞く参加者



討論会の報告をする参加者



5 成果と課題

(1) 成果

- ① 参加者のアンケート結果をみると、事業全体、研修の内容、事業の運営については、やや満足を含めて全て参加者の満足は100%だった（グラフ1, 2, 3）。参加者の感想にあるように、九州各地から同世代のボランティアやそこで働く施設職員が集まり、交流をし、情報交換ができたことは、多くの出会いや新しい発見などがあり、参加者にとって大変有意義なこととなったようだ。
- ② アンケートの結果から、参加者全員が事業を通してボランティア活動への意欲が増したことが推測される（グラフ4）。討論会や実践発表会、情報交換会などを通してボランティア同士が交流し、お互いに刺激を受け合ったり、相手の良さを見つけたりしたことで、今後の自分自身の施設でのボランティア活動に生かしていきたいという意欲付けになったと考える。
- ③ 今回の事業に参加して9割以上の参加者が他施設でもボランティア活動に取り組みたいと感じたことが参加者のアンケートの結果から推測される（グラフ6）。並行して行ったオープンドリーム事業である「笑顔いっぱい遊びフェスタ」において各施設がクラフト体験コーナーを出店し、普段施設で取り組んでいる活動をお互いに見せ合うことで、お互いの良さやを見つけたり、施設間の違いを見つけたりすることができ、様々な施設への興味・関心が生まれたと思われる。また、参加者全員が友達を作ることができたことをアンケート結果から推測することができる（グラフ7）。そのことは、施設を超えて、各地・各施設で一緒に多くの仲間とボランティア活動に取り組んでみたいという意欲につながったと考える。



(2) 課題

- ① ボランティアの活動内容やスキルの情報交換をもっとしたかったという参加者の意見もあることから発表会や討論会、情報交換会などでの交流だけでなく、参加したボランティアが自分たちで運営できるプログラムを取り入れて提供することが必要であったと考える。
- ② もっと多くの交流がしたかったという参加者の意見があることから部屋割りを工夫し、ボランティア同士の交流をより多く図れる環境を作るべきであったと考える。

6 まとめ

今回は昨年度に引き続き2回目の九州地区のボランティア交流事業であったが、今年度は公立施設より5施設の参加があったことは、プログラムの広報・普及につながる上で成果の一つであったと考える。国立の施設として公立施設への研修プログラムの普及が欠かせないので、事業に参加してもらい、実際に事業を体験してもらうことや直接施設職員間でお互いに意見を交換したりする場を設け



討論会での様子

ることは、国公立の施設にとって有意義であると考えます。また、今回の事業を通してボランティアを交流させることは、ボランティアの資質向上を図るために有効であると感じたので、今後は、参加施設を拡大し、九州各県より公立施設職員・ボランティアが参加できるように広報の工夫をしたり、九州地区青少年教育施設協議会と更に連携を深めたりすることが必要であると考えます。次年度は、事業を充実させ、ボランティアの資質向上を図り、交流を深めるために2泊3日の日程で事業を展開することが望ましいと考えます。